令和４年度第２回
東京都現代美術館美術資料収蔵委員会
コレクション部会

令和５年２月１日（水）

東京都現代美術館

午前９時59分開会

渡辺文化施設担当統括課長代理：おはようございます。定刻より少々早めですけれども、皆様おそろいですので、始めさせていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和４年度第２回東京都現代美術館美術資料収蔵委員会コレクション部会を開催いたします。私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当統括課長代理の渡辺と申します。議事に入りますまで司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都生活文化スポーツ局文化施設改革担当部長の石井より御挨拶を申し上げます。

石井文化施設改革担当部長：皆さん、おはようございます。東京都生活文化スポーツ局文化施設改革担当部長の石井でございます。

本日は、お忙しい中、本委員会に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

東京都現代美術館は、コロナ禍の影響を受けながらも幅広い現代美術を体系的に収集、保管、展示する施設といたしまして、多彩な分野を横断する国内外の現代の創造活動を積極的に取り上げまして、美術の現代を捉える様々な活動を展開しているところでございます。

本日、御提案いたします作品資料につきまして、当館に収蔵する資料としてふさわしいものであるかどうか、専門的な観点から忌憚のない御意見を頂戴したいと考えてございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきたいと思います。私の向かって左の席から御紹介させていただきます。

青野和子委員でございます。

青野委員：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：大谷省吾委員でございます。

大谷委員：よろしくお願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：児島薫委員でございます。

児島委員：よろしくお願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：冨田章委員でございます。

冨田委員：よろしくお願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：沼田英子委員でございます。

沼田委員：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：堀元彰委員でございます。

堀委員：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：ありがとうございます。

続きまして、事務局職員を御紹介させていただきます。

東京都現代美術館副館長の茂木でございます。

茂木副館長：どうぞよろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：東京都現代美術館事業企画課長の丹羽でございます。

丹羽事業企画課長：どうぞよろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：東京都現代美術館事業係長の岡村でございます。

岡村事業係長：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：どうぞよろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第がございます。

次に、資料１から資料５までの資料及び評価表がございますので御確認ください。

会議次第がございまして、資料１の東京都現代美術館美術資料収集方針がございます。資料２としまして、令和４年度第２回東京都現代美術館収集候補作品一覧表がございます。その後ろに別紙が３枚ついてございます。資料３としまして、作家・作品説明書がございます。そちらの後に、別紙で３種類資料がついております。その一番最後にコレクション部会の評価表がついているかと思います。資料４、東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱が２ページでついてございます。資料５にコレクション部会委員の名簿がついてございます。

よろしいでしょうか。過不足がございましたら事務局にお声がけいただければと思います。

配付いたしました資料につきましては、委員会終了後に回収させていただきますので御了承ください。

それでは、議事に入ります前に、まず委員長の選任をお願いしたいと思います。当部会の委員長については、委員の方々の互選で定めることになっておりますが、いかがでしょうか。

沼田委員：御経験豊富な冨田委員を推薦させていただきたいと思います。

渡辺文化施設担当統括課長代理：ありがとうございます。冨田委員に委員長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

渡辺文化施設担当統括課長代理：ありがとうございます。それでは、委員長は冨田委員にお願いいたします。では、よろしくお願いします。

冨田委員長：皆様の御推薦により、本会の委員長を務めさせていただきます。

御経験のほうは、私より豊富な方もいらっしゃると思いますが、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

まず、部会の公開について、事務局より説明をお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：当部会の公開について説明させていただきます。

当部会は、東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第10の規定により、原則公開となっております。

しかし、資料収集決定前の段階で対象資料の詳細を公開することにより、現在の作品資料所有者に不利益を生じさせるおそれがあること、また、資料の現物確認については所有者から説明の参考用に借用していることから、委員会当日の段階では議事内容は非公開とすることが適当と考えます。

なお、議事内容については、作品資料収集決定の後、議事録の公開を予定しています。

公開に当たって、委員の皆様には個人情報など公開に差し障りがある内容がないか、追って確認させていただきたく存じます。

非公開とするには、同要綱第10の第１項（２）及び第２項（２）の規定により、部会での決定が必要になります。このことについて、事務局といたしましては、委員の皆様にお諮りいただければと思います。

それでは、冨田委員長、よろしくお願いいたします。

冨田委員長：それでは、まず、この作品資料コレクション部会の公開の是非についてお諮りいたします。

ただいま事務局から本部会については非公開が適当という意見がございましたが、皆様、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

冨田委員長：では、異議がないようですので、本部会は非公開とし、後日議事録を公開とさせていただきます。

それでは、収集候補作品の説明を事務局からお願いいたします。

茂木副館長：それでは、候補作品について御説明いたします。

本日お諮りする作品は、購入９件、制作委託２件、寄贈85件でございます。詳細は、事業企画課長の丹羽、事業係長の岡村及び担当学芸員から御説明させていただきます。

丹羽事業企画課長：では、まず美術資料収集の方針の概略について御説明申し上げたいと思います。お手元にございます資料１を御覧ください。

こちらのほうに当館の資料の収集方針が示されております。簡単にご説明させていただきますけれども、収集の基本的な考え方といたしましては、首都東京の視点から、また国際都市東京の視点から、いずれも当館のコレクション展示室、常設展示から文化の拠点となるようなものを収集するという方針でございます。また、現代美術の多様性に対応するための広い分野に取り組むこと。そして、現代美術がどのような変遷をたどってきたかといったようなことをたどれるようなコレクションという方針になってございます。

そして、２番を御覧ください。こちらのほうに収集の対象及び分野が示されております。こちらのほうの収集分野の記号「ア」から「ク」については、後で出てまいります個票のほうにも示されておりますので、どうぞ御参考になさっていただければと思います。

そして、その裏面には、購入についての方針も示されております。いずれもこれまでと変わっておらず、この間の、そして首都東京の現代美術館におけるふさわしいコレクションを形成するということが示されております。

では、個票などに基づきまして、これから概略を説明させていただきます。

この後、場所を移りまして、企画展示室及び講堂に作品の実見を用意しておりますので、そちらのほうで詳しい御説明は申し上げたいと思っております。

では、この作品の概略につきまして、事業係長の岡村より御説明申し上げます。

岡村事業係長：それでは、収集候補作品について概略を説明させていただきます。お手元の資料２、収集候補作品一覧表と、資料３、作家・作品説明書を併せて御覧ください。

また、今回、一部個票を一括で記載させていただきまして、別紙で補っているものもございます。こちらも、ちょっと煩雑になってしまうんですが、併せて御参照ください。

まず最初に、購入作品の１番、久保田成子、《デュシャンピアナ：マルセル・デュシャンの墓》です。これは、久保田が1975年にニューヨークで行った個展の際に発表した最初のヴィデオ彫刻の１点です。当館では、2021年に国内３館の共同によるリサーチを踏まえた大規模な回顧展、「Ｖｉｖａ　Ｖｉｄｅｏ！久保田成子」展を開催いたしました。昨年度には、同展出品作品より短編映像作品を先がけて収蔵いたしましたが、やはり久保田の仕事を大きく価値づける草創期のヴィデオアートとの関わりを実際のヴィデオ彫刻によって示すことが重要と考え、候補作品を検討の上、久保田成子ヴィデオ・アート財団との交渉も含めて進めてまいりました。

今回、収蔵候補といたしますのは、「Ｖｉｖａ　Ｖｉｄｅｏ！」展の際に、久保田成子ヴィデオ・アート財団が監修、制作したバージョンとなるため、制作年は1972から1975年、これがオリジナルの制作発表にかかった年限ですけれども、「1972-75/2019」年という形を取っております。

続きまして、購入作品の２番から４番は、イケムラレイコさんが2020年から21年に制作した絵画２点、ガラス鋳造による立体作品２点の計４点となっております。イケムラさんは1951年生まれで、1972年に欧州に渡り、スペイン、スイスを経て1980年代半ばより、ドイツを拠点に国際的な活躍をされていることは、皆様よく御存じかと思います。

当館では、2005年に「ＭＯＴアニュアル」に御参加いただきました。その当時でも既に中堅あるいはそれ以上とみなし得る十分な実績がありましたが、以降、収集の機会を逸したままとなっていた作家のお一人です。今回提案する作品は、コロナ禍によるロックダウン期間から、それが徐々に開けていくという時期に制作されたものです。この機会に初めて手がけたというガラス鋳造作品は、これまでの代表的なモティーフを扱いながらも、この長いキャリアがある作家の新たな境地を示しており、キャリアを重ねてなお深まった同時期の絵画作品とともに、コレクション展等を通じて、これまでの作家への評価をさらに更新できるものと考えております。

続く購入の６、７番は、現在当館で個展開催中のオランダのアーティスト、ウェンデリ

ン・ファン・オルデンボルフの作品２点です。1962年生まれのファン・オルデンボルフは20年以上にわたり特に映像インスタレーションを中心に活躍されています。2017年にはヴェニス・ビエンナーレでオランダ館代表を務めたほか、多くの国際展でも作品を発表している作家です。彼女はこれまでに植民地主義やナショナリズム、家父長制、ジェンダーなど、様々な問題に関わる事象、場所、人物などを取り上げてきました。丁寧なリサーチを行い、そのテーマにそれぞれ異なる立場から関わる人々を招いて撮影を行います。そして、人々が用意したプロットに沿うのではなく、それぞれの主観に従い対話することを促し、その記録を細やかに紡いで、複雑なことを複雑なままに描き出す多声的な映像作品として提示する優れた手法に定評があります。

出品作の中から、そうした手法を確立した初期の代表作《マウリッツ・スクリプト》と、今回の個展に向けて日本で制作した最新作《彼女たちの》の２点を収蔵したいと考えております。こちらの２点は、後ほど個展会場のほうで見ていただきます。

《マウリッツ・スクリプト》のほうは、内容や撮影時の状況を踏まえて、作家がデザインした空間構成の中に２つの画面が配置される形の２チャンネル映像インスタレーションとして創られています。《彼女たちの》のほうは、一方、映画のように上映形式でも見せることができるシングルチャンネル映像ですけれども、今回の展覧会では展示のための特別なあつらえとなっています。また、画面の中で２つの異なる時間や空間が重なり合うような、左右の画面が重なり合うような編集なんですけれども、こういった創意工夫がファン・オルデンボルフの映像言語の多才さを示しています。

資料には明記しておりませんが、いずれもエディションは３プラス、アーティストプルーフで、代表作《マウリッツ・スクリプト》が、既にオランダとスペインの美術館に収蔵されており、今回のものが、実現すれば最後のエディションの購入となります。

続きまして、購入の８、９、そして寄贈の１から８の計10点は、「ＭＯＴアニュアル2020　透明な力たち」展に参加し、今後のさらなる活躍が期待される片岡純也、岩竹理恵という作家２名のユニットによる一連の作品です。二人はともに1982年生まれで、主として片岡が手がける日用品がシンプルな物理法則によって動くキネティック作品と、岩竹が手がける様々な印刷物などを繊細に組み合わせてコラージュする平面作品との相乗作用を特色としており、これを効果的に示すため、「ＭＯＴアニュアル」展への出品作を中心に購入及び寄贈作品と併せて展示・活用していければと思います。

次の寄贈９から50は、説明シート１枚と、個々の作品をリストでお示ししたものと併せて御参照ください。

1926年生まれで、昨年他界された小林ドンゲの作品について、まとまった御寄贈のお話をいただいております。東京都江東区の出身でもある小林は、1953年頃より、当館収蔵作家でもある関野準一郎や駒井哲郎に銅版画の技法を学び、エングレーヴィングの技法で独自の表現を追求しました。小林の半世紀にわたる画業の多くは、まだ広く知られているとは言えませんが、2019年に佐倉市立美術館で、同館学芸員の黒川氏の綿密な調査による個

展「小林ドンゲ展－ファム・ファタル」で、まとまった形で展観されたことを契機に、今後さらに研究、再評価が進むことが期待されます。

当館では、今回の収蔵がかなえば版画コレクションのさらなる充実に寄与するとともに、同じく収蔵作家の芥川紗織、漆原英子、福島秀子、草間彌生といった同世代の女性作家とのつながりといった視点でも、展示・活用が可能と考えております。

あわせて、寄贈51として収蔵する版画作品の原版を含む二次資料10点もございますので、制作プロセスの紹介を通じて、作家への理解とともに、技法にフォーカスした教育普及プログラムなどにも活用の幅が広がることが期待されます。

寄贈52から54の絵画３点、及び55から80の版画作品は、1972年生まれで2008年に留学先のパリで若くして急逝された若林砂絵子さんの作品です。当館では、1970年代生まれの絵画作家に注目し、一つの潮流をなすものとして順次収集を重ねております。若林さんの作品についても、数年来、収蔵を検討しておりました。コロナ禍により調査に時間がかかってしまいましたが、今回、練馬区立美術館に寄託されていた絵画３点と、フランス留学中に手がけられた独特の表現による銅版画作品26点を組み合わせて収蔵ができればとお諮りする次第でございます。

続きまして、寄贈の81は、昨年度、当館で個展を開催し大型のインスタレーション作品の収蔵をしたクリスチャン・マークレー氏より、彼の音楽と現代美術とをつなぐ領域横断的な活動を知る上での大事な参照点となるレコードにまつわる作品資料３点一式の寄贈です。

寄贈の82から84は、これまでも貴重な資料の御寄贈をいただきました個人から、ナムジュン・パイク、オノ・ヨーコに関連する二次資料。久保田成子が手がけた作品集の御寄贈となっております。

寄贈85のほうは、同様にこれまでも順次貴重な資料の御寄贈をいただきました阿部修也氏からのものです。この方はナムジュン・パイク、久保田成子の技術協力者だった方ですけれども、その交流を通じてお手元に残されたパイク、久保田に関わる二次資料の追加寄贈となっております。いずれも、既にある作品及び資料を補い、まとまった資料体としての価値を高めるものとしてコレクションに加えたいと思います。

最後に、今年度第１回の委員会にて依頼する旨を承認いただきました制作委託２点についてでございます。池内晶子さんの絹糸を用いたインスタレーション作品のコミッションは、納品物を指示書という形にし、これに基づき、所蔵者となる東京都現代美術館が池内晶子作品として、館施設内あるいは館の主催事業、これはコレクション展の巡回や館外でのプロジェクトなどを想定しておりますが、の範囲で、繰り返し展示、公開することを可能にするという変則的なものになっております。

前回、委員の皆様から頂戴した御意見も参考にしながら、指示書としてまとめていただきましたので、後ほど御覧いただきながら御説明差し上げたいと思います。

なお、指示書でも説明されているのですけれども、展示の際の高さなど寸法データを加

えたものが、その都度の展示のタイトルとなるルールになっております。

都度、異なる条件、環境で展示発表するそれぞれは、同じ指示書に基づく同一の作品とみなされると考えておりますが、タイトル中の数字表記は異なることになります。こういったことも新しい試みの収蔵の形と考えております。

以上、非常に手短ではございましたが概略とさせていただきます。

詳細は、引き続き作品を実見いただきながらお話しさせていただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

冨田委員長：では、ただいま概略を御説明いただきましたが、この段階で何か御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、これから作品の検分を行いたいと思います。

（委員離席）

（作品検分）

（委員着席）

冨田委員長：それでは、作品を御覧になりまして、何か御質問等ございますでしょうか。もし御質問がある場合には、作品番号と作品名を御指定いただいてから質問に移るようにお願いいたします。

先ほどいろいろ、皆さん、もう聞かれていますが、ほかにも何か聞き忘れたこと等がございましたら。

よろしいでしょうか。

では、意見交換に移ります。まず各委員に評価表の記入をしていただきたいと思います。作品の評価方法について、事務局から御説明をお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：作品の評価方法について御説明させていただきます。

お手元にございます評価表を御覧ください。

評価表には、今回の収集候補作品が一覧で記載されております。作品ごとにＡ、Ｂ、Ｃの３段階で評価していただきます。

Ａは収蔵すべきである、Ｂは収蔵してよい、Ｃは再検討を要するという評価になります。Ａ、Ｂ、Ｃのいずれかに丸をつけていただきます。

委員の皆様の御記入後、評価表を回収させていただき、少々お時間をいただいて事務局で確認させていただきます。

評価方法の説明については以上です。

冨田委員長：確認の結果、Ｃ評価がついた作品があった場合は、後ほど、Ｃ評価をつけた方に理由のほうをお伺いできればと思います。

何か御質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、記入をお願いいたします。

（委員、評価書記入）

冨田委員長：それでは、Ｃ評価のついたものが１件もなかったということでございま

す。では、委員の皆様から総評を一言ずついただければと思います。

じゃ、青野委員から順番によろしいでしょうか。

青野委員：大変興味深く、それぞれ拝見いたしました。久保田成子さんにつきましては、私ども原美術館でも過去に個展をしていただいた経緯もある作家で、非常に、当時、まだなかなか評価が定まっていませんでしたので、こういう形で東京都で購入をできるというのは、非常に意味があることだと思います。

また、イケムラレイコさんも私どもも所蔵している作家なんですけれども、私どもが持っているのは80年代の古い作品ですけれども、やはり確固たる評価が定まっている作家ですし、今回拝見した作品も大変いい作品だと思いました。

ほかの方々も非常に興味深いものばかりで、最後の池内さんにつきましても、前回のいろんなお話を含めて再検討いただいたということで、今後展示される機会を楽しみにしております。ありがとうございました。

冨田委員長：ありがとうございます。

では、大谷委員、お願いします。

大谷委員：ありがとうございました。いいものを見せていただきました。

私も久保田さんの展覧会を拝見して、デュシャンのあの作品は非常に迫力があって、すばらしい作品だと思いましたので、収蔵できるのはとてもよかったなというふうに思っております。

それから、イケムラさんもそうですよね。あのガラスの作品は、個展を見たときに、本当に中から光っているような本当に不思議な力を持った作品だと思いまして、すごく魅了されました。こちらに入ってしまって悔しい思いも若干しておりますが、とても展示を楽しみにしております。

あと、それから先ほど会場で拝見したオルデンボルフさんの作品、こういうリサーチして、その土地土地の歴史とか、そういうものを掘り起こしていく作業について、ともすれば、その土地の負の歴史も掘り起こしがちで、そういう扱いの難しさみたいなセンシティブな部分というのも場合によっては出てくるかもしれない。オランダの作家さんが、ブラジルの関係を、それを日本で見ること、そういうところも、場合によってはどうしてだろうというふうに思われるかもしれないですけれども、私はあれを見て、あれを見ながら、日本の我が事を振り返らせる力もあるなというふうにも思いました。

だから、そういう意味では、あの作品は持っていていい作品だなと思いましたし、やはり、ああいう作品、非常に工夫されているなと思ったのは、一定の主張を押しつけるのではなくて、その語りを多層性、複層性にしているところで、見た人、聞いた人がいろんなことを考えさせてくれる作品だなと思いました。そういう意味でとても面白かったです。ぜひ、御活用されるといいなというふうに思いました。

あと、全体に見て、女性作家がすごく多いのが、すごいと思いました。今、やはり、こういう収蔵作品のジェンダーバランスみたいなことも言われるようになってきましたけれ

ども、逆に、ここまで女性が多いとびっくりさせられるところがありました。

でも、そういう意味では、小林ドンゲさんみたいに、さっきも説明でおっしゃられていたとおり、キャリアがすごくある方だけれども、今一つ美術史の流れに乗せにくい方だったと。東近美でも持ってはいるんですけれども、なかなか文脈をつくって活用しにくい作家さんで、そういう意味では、これだけ入ったことで、どういうふうに所蔵作品展でお見せされるのか、それも期待しているところです。

だから、あと若林さんみたいに、ちょっと早く亡くなられた方とかも、ぜひ、こういうところで再評価ができるようにしていただけたらいいんじゃないかなと思って、私、楽しみにしています。ありがとうございました。

冨田委員長：　では、児島委員、お願いします。

児島委員：今日も本当にすばらしい作品をたくさん拝見させていただきありがとうございました。

今、ちょうど大谷委員がおっしゃったことと大変重なる思いを私も受けました。御説明の中で、初期の収集がとても男性作家に偏ってしまっていたということを伺いました。そこを遡って埋めていくには、これぐらい集中して女性の作家を入れていかなければ、なかなか間に合わないという状況でしょう。過去につくられた美術史の流れというのが、今から見ればジェンダーバランス的に偏った流れであったということであるので、これだけ新たな作品が入ることで、この館で美術史を新しい文脈で書き直すことができて、大変楽しみだと思います。

それから、オルデンボルフさん、不勉強で、今まで存じ上げなかったんですけれども、大変興味深い作家さんだと思います。

歴史をリサーチし、それから現地もリサーチし、本も読み、という形で作品を創る方というのはほかにも何人かいらっしゃると思うんですよね。ホー・ツーニェンさんとか、あと日本の方でも海外で発表されている方とかもいらっしゃいますけれども、やはりもっと日本のことについて語った作品も展示する機会が、批判を恐れずですかね、そういう機会があったらいいのではないかなと思います。でも、実は過去にこちらの展覧会で展示していらっしゃいますよね。収蔵品でも、こうやって少しずつ増えていくのはすばらしくよいことだと思いました。

あと、イケムラレイコさんは、私もシュウゴアーツさんでガラスの作品を拝見して、本当にすばらしくて、なんて透明で美しいものなのかと思いました。陶器の作品とまるで印象が違うんですけれども、でも連続しているんですよね。その変化に大変驚きました。

ですから、本当にいい作品の収蔵ができると思いました。

以上です。

冨田委員長：ありがとうございます。

沼田委員、お願いします。

沼田委員：今日は大変興味深い作品を拝見させていただきましてありがとうございまし

た。全体を拝見して、購入の作品がとても多いということに、まず感銘を受けまして、とても積極的に購入ということにも取り組んでいらっしゃるというふうに思いました。

キャリアのある久保田さんの作品とかも収集されながら、一方で、片岡さん、岩竹さんというような若手の作家も購入という形で収集されているということで、若手の作家としても非常に励みになるのではないかと思いました。

私も、片岡さん、岩竹さんの作品を以前から拝見して、とても面白いなと思っておりまして、キネティックなものとか、なかなか美術館で見る機会もないので、そういう視点から、また、現代美術に関心を持っていただけるのではないかなと思います。

あと、二次資料もすくい上げて収集されていて、小林ドンゲさんの作品も寄贈の版画作品と版が合うように、ちゃんと収集されていたり、スケッチブックなども収集されていらっしゃって、展示で活用され充実した内容になるのではないかなというふうに思いました。

あと、前回の池内さんの指示書の委託制作の購入がどうなるのか、楽しみに今日は伺ったんですけれども、とてもいい形でまとめられておりまして、展示がますます楽しみになりました。ありがとうございました。

冨田委員長：ありがとうございました。

では、堀委員。

堀委員：大変すばらしい収集だと思いました。

すでに各委員から言及されていたことと重複してしまうのですが、これまでの活動を踏まえて作品を収集されたり、イケムラさんのような作品を新たに追加されたり、今、沼田委員もおっしゃっていましたけれども、二次資料まで収集対象を広げられているのは大変評価できると思います。多分今後、結構二次資料は大事になってくるのかなと思います。作品と違って、保管とか管理もちょっと大変なのかなとも思いますけれども、そういうところまで視野を広げていらっしゃるところがすばらしいなと思いました。

あと、オルデンボルフですね。日本の作家でも、近年、リサーチ系の作家が大分増えてきていますので、大変いい作品を収集されたのかなというふうに考えています。

以上です。

冨田委員長：ありがとうございました。

最後に私からも一つ。今回の収蔵、バラエティー見ていますと、いろんなジャンルが入っていて、絵画から彫刻から版画から、それから映像があり、インスタレーションも最後にあるというようなことで、大変バランスのいい収集かなというふうに思いました。

それからもう一つ、私も資料についてすごく重要だと思っていまして、これは日頃から作家の方とか、あるいはその御遺族の方なんかとお付き合いをちゃんとなさっているからこういうふうなものが入ってくるんだろうと思うんですけれども、ちょうど20世紀の後半というと、ちょっと大ざっぱになりますけれども、60年代、70年代ぐらいに活躍した作家の方たちの御遺族が、また代替わりをするような時代になってきていますので、そういう

ときに、こういう二次資料って割合散逸してしまいやすいので、その辺のところもきちんと目配りをされているんだなというふうに思ったんですけれども、今後もぜひ、この種の資料というのは、やはり、作家研究にとって大変欠かせないものでありますので、そういうところも丹念に調査のほうを続けていっていただければなというふうに思います。

では、今の意見交換を踏まえて、もし評価表の内容を変更したい方がいらっしゃる場合には変更が可能ということですが、変更したいという希望される方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、意見交換を終了いたします。

ほかに何か特別に御発言、この場で言っておきたいみたいなことがございましたら。

よろしいですか。

では、これをもちましてコレクション部会を終了いたします。委員の皆様、御協力ありがとうございました。

では、事務局のほうに進行をお返しいたします。よろしくお願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：冨田委員長、どうもありがとうございました。

冒頭にて御説明させていただきましたが、本日のコレクション部会の議事録について、改めて申し上げます。

当部会の議事録は、資料収集決定後公開を予定しております。事前に内容の確認のため御連絡させていただきますので、その際はよろしくお願いいたします。

また、お配りしました資料一式ですが、回収いたしますので、机の上に置いたままにしていただければと思います。

委員の皆様におかれましては、今後とも東京都及び東京都現代美術館への御指導、御支援をよろしくお願い申し上げます。

それでは、これをもちまして令和４年度第２回東京都現代美術館美術資料収蔵委員会コレクション部会を終了させていただきます。

皆様、ありがとうございました。

午後０時00分閉会

以上